

**1 学校教育目標**

③ なかよく ②げんきに ③がんばる ④宮城の子

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	保護者、地域社会に信頼され、ともに歩む学校 ・質の高い教育を提供し、士気の高い校風を創る学校 ・児童の健やかな成長を通して信頼を得る学校 ・児童も教師も保護者とともに学び、ともに成長する学校
○児童・生徒像	なかよく、元気に、がんばる 宮城の子・・・教育目標 ・なかよく・・・豊かな心、望ましい人間関係、社会貢献力 ・元気に・・・健康な心とからだ、基礎的生活習慣の確立、たくましい意志と体力 ・がんばる・・・確かな学力、問題解決能力と態度、創造力、表現力 ・宮城の子・・・自らの存在や学力に自信をもつ、地域への感謝と誇り
○教師像	児童、保護者、地域社会の期待と信頼に応える教師 ・児童の学力向上や体力向上のため、惜しまず力を注ぐことのできる教師。 ・一人一人の児童の人権を大切にし、保護者、地域から信頼される教師。 ・課題解決のためにチームとして力を合わせ、全力を出してやり遂げる教師。

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

**現状**

児童は、上級生がお手本となり、下級生はそれを見習おうとする意識が高い。教員は、中堅層は育ってきているが若手主体の学校で、授業力向上が課題である。地域は、墨田、荒川両川に囲まれており、本校は地域唯一の小学校として親しまれており、本年度迎える創立 75 周年を地域とともに祝ってゆきたい。前年度の学校体制の中で、サービス事故が発生したので、今年度は新たな管理体制のもと、サービス事故防止についてコンプライアンスの徹底と風通しのよい円滑なコミュニケーションの 2 点を経営の重点とする。

**成果**

○コロナ禍の下、国・算・理・社・英語(外国語)の主要教科は、年間計画、授業時数を達成することができた。  
○区調査達成率が、目標としていた 83%には達しなかったが、休校明け間もない時期での実施でも、昨年より若干でも向上した。

**課題**

○法令遵守、基本行動の徹底、高い意識の維持について常に啓発して、サービス事故を起こさない。  
○授業中の会話が制限される中、新学習指導要領に則った授業を実施できるよう、日常の授業の見直しを図ってゆく。  
○児童が成就感、達成感がもてる学校行事を感染リスクを考慮した形へ創造する。(宮城小「Reborn」プロジェクト)

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間(年度) H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	楽しい学校生活の実現	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携による教育の充実	○	○	○	○	○

**5 令和3年度の重点目標**

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業力向上により、児童の学習意欲を高め基礎学力を向上させる。		国語 80% 算数 80%		国語 82% 算数 85.2%		目標は達成 二極化に要対応		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	教師の授業力の向上	①②④全学年、 全教科 ③全学年 国語・算数	・毎日 ・毎週 ・毎月	① タブレットの活用を ICT 活用年間計画通りの実施 ② 毎日の授業観察と指導・助言 ③ 教科専門指導員による計画的な授業の立案と事後指導による授業力の育成 ④ 相互授業観察、自主授業公開の実施	週の計画・授業観察  児童アンケート	・実施率 100%  ・授業で対話、振り返りの実施率 80%  ・アンケート評価「授業がわかる」90%	70%	タブレットの活用は円滑  授業改善は課題	△
2 新規	細やかな学力向上	①②③④⑤ 全学年  ④1年生 そだち	・通年 ・長期休業日 前の月	① 単元終了時のテスト結果分析 ② 読書活動の充実 ③ 10 ます計算 ④ MIM の確実な定着 ⑤ 放課後の個別補習 ⑥ 長期休業日の個別課題と学習教室の実施	・単元のまとめ ワークテスト実施  ・実施状況把握	・単元のまとめのテストで全児童 80 点以上 または達成率 8~90%  ・実施率 100%	70%	算数はほぼ達成	△

3 継続	補充学習の充実	①全学年 算数・国語 ②全学年 算数 ③全学年 算数・国語	・毎週 ・単元終了時 ・全長期 休業日	①補充学習は、全教職員により組織的に取り組む ②全学年の算数の単元終了時のまとめのテスト結果を管理職に報告し個別指導の実施 ③週1回の放課後の補充学習教室、長期休業中の学習教室を実施する。	・実施報告 (週の計画) (集計表)の提出	・実施率100%	50%	夏はコロナで自粛	△
4 継続	家庭学習の充実	① 全学年、 算数・国語 ② 全学年 週1回以上	・毎日	①「家庭学習のてびき」を作成し家庭と連携して家庭学習の習慣を定着させる。 ②宿題・自主学習ノートによる家庭学習の習慣の定着と「学びに向かう力」の向上を図る。	・実施報告(週の計画) 提出・管理職巡回 ・自主学習ノート 6年：中学と同形式 5年以下：ノート形式	・宿題の提出率 100% ・自主学習の提出率 2～6年生は 7月までに週1回 90%	70%	習慣形成はできた。	△
5 継続	中学校との連携した学力向上	① 全学年 ② 全学年、 全教科 ③全学年 ④全学年	・通年 ・毎月 (年4回) ・夏季休業 (5回)	①「指導と評価の一体化」について授業実践を通して研究する。 中：3回、小：1回 ②足立スタンダードの徹底図。 ③「自主学習ノート」の定着 ④小中相互の教員が連携・協働	・年4回の講師を招聘した研究会の実施 ・授業観察(週の計画の提出) 管理職巡回	・実施率100% ・連携部会年8回	90%	ほぼ計画通りできた。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		楽しい学校生活の実現			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
学校へ行くことが楽しみな児童を増やす		・あいさつ運動実施率 100% ・アンケート肯定的評価 90%	Googleform で実施予定	・重篤な不登校時2名を改善	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
豊かな人間関係の育成	いじめゼロ、不登校ゼロ(年度末に継続している件数)	・代表委員会のいじめ防止活動 ・集会活動、学校行事をコロナ対応バージョンに改善・実施 ・アンケート分析、SC、SSW等の効果的な活用と連携 ・特別支援教育の推進	・いじめゼロは100% (指導、改善) ・不登校対策 90%	・入院を要する重篤な不登校児2名を登校できる状況にした。	○
一人一人の居場所となる学習環境・生活環境づくり	100%達成	・一人一人の活躍の場をつくり自己肯定感を高める。 ・生活指導・校内委員会の充実	・コミュニケーションの教室に通う児童の自己肯定感の向上を図った。	・学級での状況はほとんどの児童で改善	○
「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底	90%達成	・「いきいき生活頑張りカード」年2回実施(長期休業あけ)、 ・自己評価、保護者評価の向上	・Googleform で実施予定		

<b>重点的な取組事項－3</b>		体力の向上			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
体力テストで都の平均を上回る		全学年が都の平均を超える	50%	・都平均越え60%	●
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
体力向上部会による体育授業の改善	体育の授業に計画的に進め一人一人の児童の運動量を5%増やす	・体力向上部会が実態・行事に合わせ得た指導計画を立案し、実施する。 ・教材研究、授業準備を学年で検討する。 ・児童の運動量を随時測定し、統計資料化、情報共有し部会で対応策を実施する	90%	・研究授業は公開、参観(制限あり)で実施できた。	○
オリンピック・パラリンピック教育の推進	東京オリンピック・パラリンピックを楽しみ、運動好きにする。実施後はボランティアマインドなどのレガシーを身に付ける	・Beyond2020の活用 ・ストレッチ・コーディネーショントレーニング、体幹等のトレーニング導入 ・カウントダウンセレモニー等のオリンピック関連イベントの実施	70%	・予定していた外部講師や諸活動は自粛となった。	△
体力向上部会による日常の体力向上策	コロナ禍による運動機会の減少による基礎体力の低下を改善する。 測定時に平均以下の項目を年度末には平均を超える	・感染拡大防止を配慮した多様な遊びと運動機会の設定 ・遊具の効果な活用による運動量増加 ・担任が児童を共に運動する機会の増加 ・実態に合わせた実施内容の改善 ・持久走記録会による持久力向上 ・年2回のなわとび週間の設置	50%	・自粛等による制限や変更があり持久走記録会は中止した。 ・連合運動会は各校で実施 優勝者6名 ・水泳は実施できた ・持久走の練習は実施	△

重点的な取組事項－4		保護者・地域との連携による教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
Reborn プロジェクト (感染拡大防止に配慮した 新しい活動の創造)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあつて、新しい行事の形の創設 7割</li> <li>・保護者・授業参観・行事の参加率を70%にする</li> <li>・学校からの発信についてアンケート肯定的評価90%</li> </ul>	80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して教員の意識改革行い、保護者に発信した。</li> </ul>	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校行事の改善	アンケート・学校評価の肯定的評価の回答80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあつても、児童の表現力の育成や保護者の鑑賞方法を創設する。</li> <li>・運動会の練習時間の削減と午前中実施による児童の負担軽減</li> <li>・開かれた学校づくり協議会、PTA 役員会による意見を丁寧に聞き、改善に生かす。</li> </ul>	80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会は午前中 展覧会は午後7時までの新しい形で実施</li> </ul>	○
連携した諸活動の充実	地域の行事への参加 江南中学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の授業・部活・百人一首、合唱コンへ小学生が参加</li> <li>・小学校の補充教室・ソーラン、読み聞かせ中学生が参加</li> <li>地域行事に児童の活動を披露する</li> </ul>	30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自粛による中止がほとんどだった。</li> <li>・提出型、一部実施については極力取り組ませた</li> </ul>	●
保育園、幼稚園との連携	年間3回、各教員の研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の年間計画を作成し、情報を共有し、交流研修や公開保育の参観、学校行事への招待、園との情報交換を実施する。</li> </ul>	50%	学校参観は1園実施 職員の交流は6名が 冬季休業日に園に行つて実施	●

## 6 まとめ

### ○コロナ禍にあつても「学びを止めない」ことを意識した学校経営

- ・年度当初より、不測の事態に備えて ICT 教育の推進を行い、休校中は教員間でのオンラインミーティングを行ったり、教育委員会からの支援を受けた校内研修を行ったりすることで、全教員の活用技能を高めることができた。
- また、年度の後半には教育委員会からの ICT 支援員の支援回数を増やしてもらうことで、オンライン授業やグーグルフォームを使ったアンケート調査なども実施でき、保護者にとつても、学校とのつながりや学校の改善の姿を、ICT の活用を通じた具体的な姿で直接伝えることができた。
- ・年間を通して、安定した授業形態で通常の授業ができる期間は少なく、全体の児童の学習内容の定着や補充を必要とする児童への支援については十分とはいえない。調査結果の数値には現れない一人一人の学びの姿を向上させるために、今後は継続的に工夫した支援や補充学習を行っていく必要がある。

### ○一人一人のニーズに合わせた指導・支援を支える外部人材の活用

- ・特別支援教育の推進のために、校内委員会での情報共有を確実に行ったこと。コミュニケーションの教室担当以外の教員が特別支援教育をより深く理解できるように、午後の授業がない期間を有効に活用するためにハイパーQ-U や合理的配慮など、児童理解や学級経営に関係の深い研修を行った。
- ・また、補充学習が必要な児童や、支援を多く必要とする児童にたいして、担任教員の他に、学習ボランティアを可能な範囲でより多く任用して、個別学習や個別の支援の体制を充実することで児童の学校生活の安定に努めた。

### ○感染リスクに十分配慮した学校行事の実施

- ・秋の運動会は午前中のみであったが、保護者の観覧形態を工夫したり、ICT を活用した児童の観覧方法を考えたりして実施することができた。俣、冬の展覧会では、会場の展示方法を工夫したり、保護者の働き方に配慮した開館時間の延長、日没後のライトアップなどの工夫をしたりすることで、多くの保護者から良い評価をいただくことができた。今後も、社会情勢や時代と共に変化していく保護者のニーズにしっかりと応えていく学校づくりを進めていきたい。
- ・本校の特徴の1つである荒川の河川敷を利用したマラソン大会は感染拡大防止対策のため中止となった。コロナ禍で体力の低下や怪我の件数の増加が見られたため、行事は中止であっても、業間の時間を活用して全校児童が校庭を走る活動や、大縄・短縄を活用した縄跳びの活動などを推奨して体力向上ができるように工夫した。

### ○小中連携教育や就学前教育との連携

- ・小中連携は学校間・教員同士の交流は制限されたが、オンラインで講師の指導を受けることができ、研究テーマの「指導と評価の一体化」についての理論的な部分については理解を深めることができた。就学前教育については園児との交流は大きな制限があったが、教員の研修は冬季休業日の期間を利用して実施することができた。地域に1つの小学校として、一校同士の連携となる江南中学校や近隣の3園との交流については、with コロナになつても、できる方法を創設して教育の充実に努めていく。